

平成 28 年度日韓青年親善交流のつどい
参加者からの感想文



つどいで広がるWA

石原さや

私は以前から日韓交流に興味があり、これまでに様々な活動に参加してきた。交換留学生として韓国にいる自分でも参加できる日韓交流はないかと探していたところ、今回7月末に行われた本事業に出会った。活動地が実家から遠く参加するか否か悩んだが、留学一時帰国中という立場で活動に参加できる機会は二度と来ないと考え本事業に応募した。

今年度のつどいのテーマは「ともにWA」であった。WAには様々な意味があるが、その中でも私がつどいを通して感じたWAについて書きたい。1つ目のWAは親和のWAである。参加青年たちは日韓共に様々な地域から集まっていた。日韓青年親善交流という事業名の通り、二泊三日の間に文化交流やディスカッション等の活動や各部屋での自由時間を通して日韓の参加青年の距離は自然と縮まっていった。それだけでなく、私にとっては日韓交流に関心のある日本青年と話を交わす貴重な時間となった。つどいを通して日韓交流に尽力する仲間が日本全国にいると気づけたことは私の中で大きな刺激となった。このように、つどいでは国籍を問わない人と人の親和のWAを感じる事ができた。

2つ目のWAは人のつながりの輪だ。二泊三日という期間は想像以上に短く、もっと積極的になるべきだったという後悔も正直大きかった。しかし、私にとってのつどいのつながりは二泊三日で終わりではなかった。つどい終了後、実行委員の方が韓国に来られた際に食事を共にする機会があったが、その場には今年度の参加者の他に、内閣府韓国派遣のOBやOGの方、日本に招へいされた韓国青年がおり、参加年度も年齢も様々であった。つどいをきっかけにして、韓国でも様々な方との出会いがあり、留学期間中に参加して意味があったと心から感じ、留学後もこのWAを広げていきたいと思った。このような素晴らしい機会を与えてくださったすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

日韓青年親善交流のつどいを通して

川島史奈

私は日韓青年親善交流のつどいに参加し印象に残った事を、2つの言葉で表せます。

1つ目は、後悔です。4月から学び始めた韓国語が夏休み前までにどのくらい話せるようになっているか、また韓国の文化が好きなので韓国の学生達と交流してみたいという軽はずみな気持ちで応募しました。しかし、初日の韓国人学生との対面からいきなり自分の周りを飛び交う韓国語。何を話しているのか全く分からず、言語という分厚い壁を感じ、1人世界から置いていかれたように感じました。なぜ時間があつたのに本格的に勉強しなかったのだろうと深く反省し後悔しました。また、言語力不足と決めつけ萎縮し、韓国人学生はおろか、日本人の参加者の方々とも積極的に話しかける勇気すら、最初は持てませんでした。しかし、韓国人学生や日本人参加者、スタッフの方々が積極的に私に話しかけ、通訳に入ってくださり、初日は全く馴染めなかった私も、最終日にはルームメイトの日韓の学生たちと夜遅くまで日韓の文化、学生事情などについて仲良く語り合うことができました。もっと早く自分で閉ざした殻から抜け出し、伝えるという失敗を恐れず話しかければよかったなと思いました。

2つ目は、韓国人学生から多く受けた刺激です。ディスカッションの時、事前に完璧に準備を行い、意見を発表し、私たち日本側の意見に対し疑問に思う所をすぐ質問する姿にただ圧倒させられました。同世代ですが、向上心の高さの差を垣間見られて、私も負けてはいれないと自分を鼓舞しました。

このプログラムを通し、韓国の文化や現代社会、歴史について興味関心がより深まりました。実際に韓国人学生と日韓の文化や社会、相互イメージなどを話すことで現実味も帯びていき、より深い議論を行うことができました。今後は韓国語だけではなく、幅広い教養を身につけ、また語り合いたいと思うような人達に出会いました。このつながりを大切に、交流を深めていきたいです。

新たな挑戦

白石真由子

日韓青年親善交流のつどいへの参加は私にとって、“新たな挑戦”でした。中学生のころから韓国の文化に興味を持ち始めたのがきっかけで、韓国のことをもっと知りたいという気持ちがあったのですが、実際にプログラムに参加するなど行動に移すことができずにいました。しかし大学2年生から新たにハングルの授業を取り始め、韓国語の楽しさに再び気づいたのです。そんなときに、このプログラムに出会いました。韓国語レベルはあまり高くなかったけれど、韓国人の友人を作りたい、交流して韓国青年たちと思いや情報を共有したいという思いから参加しました。

実際に参加して感じたのは、国籍が違ってもしっかり考えには様々な共通点があることです。つどいの中で、日韓共通で考えなければならない話題についてディスカッションを行う機会がありました。日韓青年で各国の教育システムについて疑問に思うところが同じであったり、逆に日韓の文化について考えていく中で相違点だと思う部分が同じだったりしたのです。ディスカッション以外のご飯の時間などお互いについて話す機会にも、意外な部分で共通点を見出すことができました。

また、韓国語レベルがあまり高くないからこそ学べたこともあると感じています。私は韓国語で簡単な日常会話しかできなかつたのですが、韓国青年たちから英語で話しかけてくれたり、韓国語の単語や文を教えてくれたりしたのがとても嬉しかったです。

つどいに参加し、以前より韓国語を熱心に勉強するようになりました。ほかの日本人参加者が韓国青年と話しているのを見て、韓国語をあまり流ちょうに話せない私は少し悔しい思いもしました。しかしそのような経験から、私もあんなりたい、という目標を得ることができました。韓国青年たちとの貴重なコミュニケーションの機会、韓国人の友達、そして韓国語を勉強していくうえでの自分自身の目標など様々なものを得ることができました。このプログラムに参加できたこと、本当に感謝しています。

「〇〇人」と考えないこと

伊野つづみ

「韓国人」とはどのような人たちなのでしょう。

私は今回つどいに参加するまで、韓国との関わりはほとんどありませんでした。韓国人の友人はほとんどおらず、韓国語も簡単な自己紹介ができる程度。韓国へのイメージと云ったら、おしゃれな人が多い、辛い料理、歴史認識の問題など漠然としたものしかありませんでした。隣の国、韓国をもっと知りたい。韓国の若者がどんな人で、どのようなことを考えているのか知りたい。そう思ったのが今回このつどいに参加したきっかけでした。

つどいの初日、ペア探しのプログラムがありましたが、私はなかなかペアを見つけることができませんでした。いろいろな人に声をかけながら途方に暮れていると、ふと後ろから韓国の女の子が声をかけてくれました。「ペア見つからないの？じゃあ、一緒に探そう！」彼女はにこっと笑ってそう言うと、まだ名前も知らない私と腕を組み、そのまま私のペア探しを手伝ってくれました。その後も韓国青年の親切な心にたくさん触れました。輪に入れないでいるときにすぐに声をかけてくれる子。日本舞踊を披露した時に、真っ先に感想を言いに来てくれた子。韓国語の話せない私と仲良くなろうと、自由時間を削って私の似顔絵を描いてくれた子。日々青年たちとのきずなが深まることに喜びを感じました。韓国人の人は温かくて優しいと感じました。

しかし、三日間の共同生活を続けるにつれ、韓国人も日本人も、皆同じなのではないかと考えるようにもなりました。もちろん、文化の違いは多くあります。言葉の壁もあるし、受けてきた教育も考え方も全く違うでしょう。しかし、その韓国の中にもいろいろな人がいます。初日の子のようにフレンドリーな子もいれば、シャイで黙っている子もいます。韓国人の中にもおしゃれでない人だってもちろんいます。日本が大好きな人も、当然そうでない人もいるかもしれません。だから、「韓国人の性格」「韓国人の考え方」などを特定することはできないと感じるようになったのです。「韓国人」とはどのような人たちなのでしょう。当初抱いていたこの問いに対し、今の私は「答えは無い」と言うと思います。

今、日本と韓国の関係はそれほど良いとは言えないでしょう。日本ではヘイトスピーチなども起きており、心が痛む限りです。しかし、その原因の一つは誤ったイメージに基づいて「韓国人はこうだ」と決めつけているからなのではないかと思えます。韓国の友人と多くつきあい、違いはあれど韓国人も日本人もいろいろな人がいて、国籍は関係なく結局同じ「人間」という仲間なんだ。このことを心から感じる事ができれば、差別や偏見もずっと少なくなるのではないかと感じました。

最後に、つどいに参加したことは私にとって一生物の思い出となりました。実行委員の方を始め、つどいの成功に携わったすべての方々に感謝いたします。

つどいの輪

田原萌絵

今回の日韓青年親善交流のつどいに参加したいと思ったきっかけは大学のホームページに掲載されていたことで知り、応募したことです。私は以前から韓国の文化に興味があり、授業で韓国語の授業を履修していたので今回の機会ですらに理解を深められると思い参加したいと思いました。楽しみな気持ちが募る一方で、私は韓国語で話すことができないので当日までは不安な気持ちがありました。しかし、いざ交流会に参加してみると言語が通じない時は周りの方々からのサポートで通訳していただき、またジェスチャーなどでも会話することができたので感動しました。韓国青年の方々の中には日本語がすごく上手な方もいらっしゃったので私も見習ってこれからも勉強をしていきたいと思いました。

二日目のディスカッションでは、私は政治経済についてのテーマで話し合いました。難しいテーマでしたが、お互いの状況を改めて知ることによって新しい発見があり、討論が盛り上がったと思います。最初は難しく意見を出すことができませんでしたが、このような機会があったからこそ知ることができた話題だったので、これから交流していく際でも政治経済の話題を考えていきたいと思いました。

夜に行われた文化交流では、それぞれの発表を通してたくさん吸収することができました。私はダンス発表のグループの一員として参加し、K-POPダンスを披露しました。韓国青年の方々から二日目にはアンコールをしてもらえてとても嬉しかったです。交流が一日目のときよりもさらに深まっていたことを実感しました。

最終日のフリータイムの際はあっという間に感じ、不安だった気持ちがうそのようでした。韓国青年の方々とは交流会の後に観光案内をすることができました。私はこの三日間を通して交流を深めたきずなを改めて感じることができ、今回だけではなくこれから先も交流の輪を深めていきたいと思いました。私は今回の機会は夏休みでとても充実した経験になったと思っています。今までよりも韓国についてさらに勉強に励もうと思いました。このような機会があったら是非参加していきたいです。

内閣府の方々、実行委員の皆様貴重な経験をありがとうございました。

日韓の架け橋になる。そのために。

中尾嘉宏

私が日韓青年親善交流のつどいを知ったのは昨年募集期間が終わった直後くらいだった。昨年のその時期、私は日韓交流プログラムに参加したくてインターネットで日々検索していた。今年は韓国派遣団の団員にも選ばれていたこともあり、韓国派遣中に出会う韓国青年たちと早く会って交流したいという思いで応募をした。応募をする時に私は「日韓の架け橋になる」という目標を掲げた。

まず、つどいに参加して一番良かったことは、日本・韓国の幅広い地域から集まった青年と出会えたことだ。初日は「仲良くなれるだろうか」「言葉はどのくらい通じるのだろうか」「日本男子が少ない」など様々な不安があった。しかし、実行委員の方々が用意してくれたアイスブレイクや一緒に食事をしていく中で自然と打ち解けていった。また、様々な地域・年代の青年が集まっただけあって、両国の青年から多くの刺激を得られた。例えば、私は語学力が乏しいが、日本語が上手な韓国青年が通訳をしてくれて語学面で助けられて、私ももっと韓国語を勉強しなければならないと実感した。また日本青年と会話をしていると韓国事情に非常に詳しい人がいて、私も日本のこと・韓国のことをもっと知らなければならないと思った。両国の青年から良い刺激をもらった。

もう一つ良かったことがある。それはつどいの初日にあった「文化交流のタベ」というプログラムだ。このプログラムで韓国青年の出し物をたくさん見た。テコンドー、伝統的な話の劇、ダンス、歌など色々な出し物を披露してくれたが、どの出し物もクオリティが非常に高く、韓国文化を日本に伝えるために真剣に取り組んできたことが感じられた。それと同時に私たちが韓国派遣中に披露する出し物のクオリティや見せ方、練習への取り組み方などについても考えさせられた。今回のつどいで本年度韓国派遣団の日本青年は韓国青年から良い刺激をもらったと感じた。その結果、韓国派遣中の出し物も納得できるものを披露することができた。

最後に私が掲げた目標についてだ。つどいを終えた段階ではまだ「日韓の架け橋になる」という目標を達成できたかどうかはわからない。しかし、二泊三日という短い期間であったが、多くの日韓の青年と交流をして親睦を深めたことは確かである。一緒にゲームをしたこと、食事をしたこと、ディスカッションで真面目な話をしたこと、夜中まで語り合ったこと、どれも良い思い出である。つどいだけで終わる関係ではなく今後も付き合い合えるような関係を築いていきたいと思う。

そして、今回のつどいを運営してくれた実行委員の方々や日韓の参加青年との出会いに感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

<日本青年>

- たくさん韓国青年と知り合い、つながりを広げられた。これからも付き合える人々と知り合うことができ、楽しいだけでなく、ディスカッションなど、お互いの国についてより理解を深められたことが良かった。
- 様々なプログラムを通して交流をしたので、あっという間と言うよりも、むしろ三日間とは思えないほど内容が濃かった。
- 日韓文化交流のタベが一番印象に残った。それぞれが用意してきた舞台を見ながら、自然と手拍子や掛け声が起った時に一体感を感じ、心が温かくなった。
- 文化交流のタベや文化体験も初めての経験でとても楽しく、韓国の文化を学ぶことができた。
- 様々なプログラムと、韓国語を話せない自分にも積極的に話しかけてくれたり、通訳をしてくれたりする韓国青年のお陰で韓国の文化をもっと知ってみたい、コミュニケーションを取れるよう韓国語を勉強したいと思うきっかけになった。

<韓国青年>

- 日本語も英語も上手ではないので会話することが大変だったが、日本青年の文化をたくさん学ぶことができて良かった。日本の友人と一緒に泊まり、日韓文化交流のタベや日本の伝統遊びを習い、多くの日本の友人を作ることができて本当に良かった。
- ルームメイトやチーム、パートナーの組み合わせがすべて違い、多くの友人たちと付き合うことができて良かった。
- 日本の友人とペアを探したり、一緒に夏祭り体験をしたりすることができて本当に良かった。ディスカッションのときは様々な意見を交わすことができ、三時間が短いと感じた。日韓青年親善交流事業という名称が一番似合うプログラムだったと思う。
- ここで知り合った友人たちとずっと連絡を取り合い、関係を発展させていくことが大切だと思う。